

木津川に太陽電池工場

クリーンベンチャー21 高効率の「球状」増産

太陽電池製造のクリーンベンチャー21（京都府木津市、室園幹夫社長）は球状の多結晶シリコンを使った太陽電池の量産工場を建設する。京都府木津川市に十五億円を投じ、

二〇〇九年末にも年産四

万キロワットの工場を稼働させ

る。一二年には生産能力

を年十万キロワットに増強。少

ないシリコンで効率良く

発電できる特長を生か

し、主に欧州市場で販売

する。

同社は京都市内の本社

工場で六月から球状太陽

電池の量産を始めた。生

産能力は年一万二千キロワ

ット程度。さらに新工場を建

てるのは、太陽電池の普

及に向けた助成制度が手厚い欧州で現地企業からの増産要請が強いためだ。

球状太陽電池はすり鉢状の小さなくぼみを付けた基板に、直径一ミリの球状シリコンを埋め込ん

で作る。太陽光がくぼみの壁面に反射して中心の球状シリコンに集まる仕組み。価格が上昇しているシリコンを従来の五分の一に減らしても、シリ

コンを敷き詰めた板状の太陽電池と同等の発電量

が得られるという。

新工場が稼働する一〇

年三下期に九十億円の売

上高を目指す。同社は松

下電器産業で太陽電池開

発を担当していた室園社

長が〇一年に設立したベ

ンチャー企業。